



終らない敗戦80年は戦争前夜へと続く

石原艶子

◎平和は安全保障の反対である。自国の安全を求めるという事は相手国に対して不信を持つという事である。そしてこの不信が再び戦争を引き起こすのである。

◎平和は普遍的正義に基づいて非暴力的な手段で追求されなければならない。

◎非暴力は無限に創造的である。暴力と報復そして戦争はただ死に導く

(ガンジー)



イラスト：大城旋律（孫）

○人はなぜ「戦争の誘惑に負け、人間性を放棄するのか」

○平和はどうしたら作れるのか、党派、宗派、人種、国境、イデオロギーを超えて助け合った時に実現する。みんなが反対すれば戦争はやめさせられる。平和の最大の敵は無関心である。戦争の最大の友も無関心である。（阿波根昌鴻）

○歴史を真正面から認識することなしに平和を創造し、未来を切り開くことはできない。

☆終らない敗戦80年は戦争前夜へと続く —— 敗戦80年が何故今、新しい戦前を生み出しているのかを私たちは真剣に考えなくてはなりません。「日本の敗戦80年は同時に朝鮮分断80年」という言葉に新たに出会い、頭を殴られた様な衝撃を受けました。そして日本という国がいかに世界の国々に、人類に、たとえようもない不幸をもたらしたかを思い、愕然とし言葉を失いました。この歴史の事実を知り、学び、向き合うことが日本人に、特に若者に求められています。朝鮮というひとつの民族（家族）が北と南に分断され、敵対する二つの国家になってしまったこの不幸を作ったのは私たち日本人なのです。1945年7月26日ポツダム宣言を受諾して、戦争を終らせていたら朝鮮の分断はなかったのです。広島、長崎の原爆投下もソ連軍の対日参戦もなかったのです。何故？7月26日のポツダム宣言を受諾出来なかったのか？そこには天皇制が深く関わっていたことは明白です。天皇制国家は敗北を受け入れることが出来ない皇国思想に縛られていたのです。アジアの国々を侵略し、何千万もの人々を殺した罪深さは言語に尽し難いものです。この歴史の事実と真正面から向き合い、世界の国々に対して心からの謝罪なくして新しい平和への歩みを作ることは出来ません。唯一の希望は、神様から憲法9条を頂いたことです。非武装平和国家として、侵略した国々に対して謝罪し、信頼関係を築いて、愛をもってそれらの国々のために尽すことではありませんか。朝鮮戦争特需によって敗戦後経済復興したのですから、その利益は朝鮮の人々に謝罪金として支払うべきだと思います。それなのに自国第一主義の日本には愛も正義もありませんでした。そして私達の国は、憲法9条を捨て、軍拡一途に戦争前夜の今へと突き進んでいます。

◎8月15日は敗戦の日とされていますが、これは天皇の玉音放送による天皇制の中での敗戦日であって、真の敗戦日は9月2日ポツダム宣言に調印した日です。9月2日は抗日戦勝記念日として、中国、ロシアは盛大なパレードをして世界にアピールしています。

◎沖縄では9月7日が公式に沖縄戦終結の日となっています。8月15日から9月7日まで戦闘は続き、この間に日本兵による住民虐殺など住民を巻き込んだ戦闘により多くの命が失われたのです。また各地の収容所に居た住民は食糧難、栄養失調、マラリアなどの苦難のどん底の中で多くの県民が命を落としました。その後の80年の沖縄がどんなに悲惨な歴史をたどり今に至っているかは語り尽せませんが、戦争前夜の現実を目の当りにして声を上げ続ける私達沖縄の市民の声は、今日も海を渡る風に乗って、確かに大空に響いています。

◎沖縄尚学高校が全国高校野球大会で優勝して、県民は喜びに湧き立ちました。つくづく思った事は、「平和」だからこそこの喜びがあることを、戦争で死んでいった多くの若者達を思い涙が溢れました。二度と戦争してはならない、平和が第一、命どう宝です!!

◎心に問いかける言葉を記して、敗戦80年、戦争前夜を止めるために共に考え行動したいと思います。

『先日の国政選挙で参政党員が「非国民」という言葉を演説時に使った。人を分断し排除する言葉だ。戦争当時に生きていたら私も使っていた言葉かもしれない。私達は戦争の上に生きている。私達がこの事実を単なるただの歴史としてしか認知しなかったら、同じ事が起こってしまう。今、過去から何を学ぶのが将来を決めることになる。その時同調圧力に対して「それは違う!」と言える心を神様に与えて頂きたいと祈っている。』（エクレシア誌、松本万知子、被爆二世）

マルチン・ニーメラーの詩（以前にも紹介しましたが、今、再度新たに）

（1950年代平和主義者 反戦、反核活動家 ドイツの牧師 1937~1945年 強制収容所に収容）

ナチが共産主義者を攻撃し始めたとき、私は声をあげなかった。私は共産主義者ではなかったから。
社会民主主義者が投獄されたとき、私は声をあげなかった。私は社会民主主義者ではなかったから。
彼等が労働組合員を攻撃したとき、私は声をあげなかった。私は労働組合員ではなかったから。
彼等がユダヤ人たちを連れて行ったとき、私は声をあげなかった。私はユダヤ人などではなかったから。
そして、彼等が私を攻撃したとき、私のために声をあげる者は、誰一人残っていなかった。

平和への祈り —— 宇宙に浮ぶ地球という名の星、人間は地球というこの星だけに住んでいる。その人間は多種多様! 肌の色、目の大きさ、鼻の形、髪の毛の色も違っている、みんな違って同じ人間は一人もいない。話す言葉も文字も衣服も飾りも、食べ物もみんな違っている。みんな違った人間がひとつの地球で暮している。原生林の中で半ば裸で暮している原住民もいる、住んでいる場所、環境、気候によって異なる生活、文化が生れている。この違いを人は民族という。そして民族は国家を造り独自の自由な文化を築いてきた。すべての民族がその独自性に誇りと自信を持ち、他を犯すことなく認め合い、信頼と尊敬をもって地球家族として共存共生し平和に生きることを願ってきた。然し人の心は定まらなかった。いつしか民族と民族は対立し、相手を侵略し、殺し、覇権を争い武力による強者、支配者となることを選び、争う者となってしまった。争いは憎しみを生み、戦争の種を播いてしまった。その憎しみの種は成長し、今や人類は破滅の危機に瀕している。悲しみの人間、悲しみの地球!! 地球は怒り、地震、洪水などなどの自然災害を通して警告を発し、人類が地球家族であることを示してきた。それなのに人類は争いを止めることが出来ず、殺し合いそして限りなき欲望のために自然を破壊し続けている。

地獄のパレスチナ、ガザの絶望 —— イスラエルによるガザへの攻撃が止まらない。何万人もの子供達が餓死と攻撃で殺されているこの現実を見て、何故、イスラエルの市民は立ち上がらないのか。先日1000人規模のデモはあったが、国を動かすほどのデモは起きないという。市民の多くが「ハマスが悪い、ハマスを撲滅させなくてはイスラエルが危い」と言ってこの戦争を認めている。彼等は戦争だから子供達が巻き込まれ死ぬことは仕方ないと言う。どうしてあんなに平然としておれるのか。ナチドイツによるユダヤ人虐殺の歴史を経験した民族が何故ここまで人間性を失ってしまったのか私には分らない。日本は常にアメリカの顔色をうかがい、パレスチナ国家を認めるとは言わない情けない国である。（ヨーロッパの国々は認めているのに）アメリカのキリスト教世界もトランプと同じ、イスラエルを支持している。国連の報告書により隠されている事実を知りました。

ガザ虐殺は企業に利益 ——— イスラエルのガザジェノサイドが続くのは、それによって多くの者が利益を得ているからだ。「ビジネスと人権に関する指導原則」が示すように、企業は国際的に認められた人権を尊重する責任があると述べています。ハイテクを使った監視、情報処理関係企業など、ガザ攻撃が軍事技術の実験場になっている。IBM、マイクロソフト、パランティア、IAI、ロッキード・マーティンなどの兵器製造ラインに、ロボットマシンを提供する企業として日本のファナック社の名も挙げている。日本も兵器産業に手を染め戦争に加担している。もう平和憲法を捨てて、死の商人の道に入ってしまった。これが最も恐ろしいことである。命よりも金と経済が優先し、軍需産業の金が世界を牛耳る限り、人類は永遠に戦争を止めることは出来ないであろう。そして人類は滅びの道へと。まず足元の正義と愛を人類は取り戻せるのか。目の小さな愛を生きることから始めよう。

今あなたの近くにいる人（隣人）を愛することが世界を愛することになる(岩島公)

愛のない正義などあり得ない

戦いの相手は誰か ——— 私たちは一体誰を、何を相手として戦っているのでしょうか。目の前にいるのは鉱山の人々、警察の隊員、防衛局職員、そして警備員、ダンプの運転手、これらの目の前の人々が敵なのでしょうか。違います。真の敵は決して姿を見せることはありません。目には見えない存在者、闇の世の主権者なる悪魔（サタン）なのです。人の心から愛を奪い、平和を奪い、人と人が争う姿を見て喜ぶサタンです。相手はサタンなのですから人を決して憎んではいけません。憎しみはサタンが喜ぶことであり、私たちはサタンの手中にはまってしまってはなりません。サタンから解放されて真の人間性を取り戻すために声を上げ続ける他はありません。サタンの策略は巧妙で世界の指導者を虜にして戦争を起こし、人類を滅ぼすことが目的なのです。私たちは目を覚まし、サタンの知恵に優る真の知恵、知性、理性をもってサタンの計画（策略）を打ち破るために、サタンが最も嫌う正義と愛と平和を求めてサタンに魂を売ってしまった世界のリーダーに呼びかけ続けなければなりません。途方もない戦いですがやるしかありません。全き非暴力の愛の力で立ち向かって声を上げ続けましょう。ここに希望は確かにあると信じます。

●非暴力は無限に創造的である。暴力と報復そして戦争はただ死に導く（ガンジー）

宮城島での抗議行動No.4

のどかで緑豊かな宮城島。沖宮鉱山は削り取られ剥ぎ取られて、見るも無残な姿に変わってしまった。やがてこの山は消えてしまい後世の人々は山があったことさえも知らず、いつの日かこの山が、辺野古大浦湾を埋め立てたことを知るのでしょうか。あまりにも悲しいことです。沖宮鉱山の入口には今日も朝8時から午後4時頃迄、うるま島ぐるみ会議を中心とした市民数十名が結集し、ムカデ歩きをしながら抗議行動を続けています。毎日の行動の責任者なるリーダーの方々は交替制で担当して下さっています。

リーダーの方々の事 ——— リーダーの方々は世界情勢、国内政治などへの深い見識を持ち、ウチナーの歴史から培った沖縄魂、燃えるような平和への情熱を持って、問題点を的確に把握して指摘しつつ、説得力のある確信に満ちた力強い言葉をもって今、目の前で起きていることが全くの愚行であり、新たな戦争前夜へと向う悪そのものであることを訴え続けています。またひとつひとつの法律違反の事実を見逃すことなく、決して妥協せず、改革を求めて闘って下さっています。その成果はひとつひとつ目に見える形で現れて、私たちの抗議行動の中も広がり、場所が広くなりました。

一日のダンプの数は多い日は230台にもなり、農道を傷め続けています。この道路の補修整備費をうるま市が負担するのは筋違いであり、国、沖宮鉱山が負担すべきだとして市に対しても抗議しています。うるまの市民が支払うなどとてもないことだと思います。リーダーの方々がこうしてひとつひとつの事柄を見逃さず、真正面から国を相手に発言して下さる力強い行動力に私は凄いなー!!と感動、誇らしく思い

大きな励ましの力を頂いています。リーダーの一人一人に唯々心から感謝しつつ、微力であってもつながって共にありたいと強く思っています。然し、ふと立ち止まると先に召された敬愛するリーダーの方々のお姿と重なり合い、リーダーの方々に残された時間はそれほど長くはないことを思わずにはおれません。私たちはひとつの時代という限りある時の中で生かされて今こうして共に闘っています。次世代の人々はこの闘いをどう継承し前進させていくのか。バトンは渡せるのか？時代というひとつの限界の中を生きている私達は、この与えられた時代と場所の上に立って、人間らしい人間として当り前の真実を正義を叫ぶことを命のある限り続けていくでしょう。バトンを受け取る手は必ずそこにあると信じます。

うるま島ぐるみ市民の活動から

◎8月20日うるま市勝連のホワイトビーチ（米軍海軍基地）で米海軍ドック型輸送揚陸艦ニューオーリンズで火災が発生し、12時間燃え続けました。戦艦には弾薬が積載されているとの情報もあり心配しました。幸い事故にはなりませんでしたが、ホワイトビーチには原子力潜水艦をはじめ、世界各国から大型の軍事用戦艦が次々と寄港し、私達住民には分らない様々な軍事作戦訓練が行われ常に戦時態勢なのです。8月29日、私達は防衛局前にて抗議行動をし要請をしましたが、いつもの通り防衛局は一切住民無視、無回答でした。それでも私達市民は、絶対に戦争を二度と起こしてはならないの一念をもって声を上げ続けます。

◎9月10日、うるま市勝連分屯地（ミサイル本隊第七連隊の本部司令部）へのミサイル配備と11日から25日までの日米共同軍事訓練（レゾリュート・ドラゴン25）に対する反対抗議集会に70人が分屯地ゲート前に結集しました。北海道、九州、沖縄と日米で1万9千人が参加する過去最大規模の訓練です。これはアメリカ指揮下で行われるミサイル戦争の訓練です。アメリカはいざ戦争となれば沖縄を見捨てることなど何ともないのです。今のパレスチナ・ガザを見れば分ります。イスラエルの背後にはアメリカがいるのですから。アメリカ指揮下で行動する自衛隊はアメリカと一体となって戦争へ進む恐ろしい訓練の実体を国民が知り、声を上げなくてはなりません。自衛隊は国民の生活圏に巧みに入り込み、国民感情の醸成に努めています。エイサー祭りに自衛隊エイサー隊として参加するなど、反対の抗議の声も聞き入れることはありません。戦争前夜はアメリカ追従の下、恐ろしい勢いで拡大しています。私達は目覚めて危機感を持ち、ひとつひとつ見逃すことなく声を上げていきましょう。

◎7月の参議院選挙では私達市民の代表、高良さちかさんが当選を果たしました。負けが続いていた中で大きな喜び希望が生まれました。来年の知事選勝利へと繋がっていく事を願いつつ、難しくなった沖縄の選挙について話し合いが行われました。

◎辺野古の工事は全く完成のメドも立たず数十年後はどうなっているのでしょうか。人間の愚かさの象徴です。次世代を生きる人々の苦難を思わずにおれません。

◎昨年6月、安和での事故で九死に一生を得たOさんは回復されお元気になられつつあり感謝ですが、県警はOさんに過失ありとして「嚴重処分」で書類送検との事です。このような状況を作り出した国、防衛省の責任を問う事なく個人を犯人扱い、被害者が加害者とされOさんに二重の苦難が降りかかっています。私達に何が出来るのでしょうか。Oさんの苦難を私達みんなが共に担って励まし合い、共に闘っていきたいと思います。

《あみの会》—— 山田博子さんと仲間の皆さんが作品作りに頑張っております。少しでも現場で闘う皆さんの支援に役立てたいと思います。糸を提供して下さる方は下記の石原まで御連絡下さい。

《連絡先》〒904-1115 うるま市石川伊波 1180-5 石原つや子

自宅：098-964-3237 携帯：090-4471-1942 Email：yuuwanoie@gmail.com

《振込先》ゆうちょ銀行 記号：12260 番号：12650271 イシハラツヤコ